

八月一日

八時頃に起きた。やはりフェリーのベッドは熟睡できないもんだ。今日も曇だ。午後になってほんの束の間、晴れ間に巡り合って青空になった。海も青くなった。これでこそ船旅だ。やはり海は青くなくてはいけない。そう思ったものの、さっぽろ丸は再びミルク色の霧の中へ入ってしまった。

フェリーでの一日がこんなに退屈とは思わなかった。退屈を通り越して苦痛ですらあった。酔いはしないものの、船の揺れはやはり気持ちのいいものじゃない。

冷房が効き過ぎていて船室は寒いし、ましてデッキでは冷たい北の海の風が吹き荒れている。暖かさが恋しかった。

ともかく夜になった。 Grillで和風ステーキとビールを注文した。ステーキは硬かった。ビールはすぐに酔ってしまった。

このツーリングの全日程を通じて、最も思い出に残らない一日になった。